冬期テキスト

必修編

国語

中学 1 年

第6講座 古典 ― 古文の知識

学習日　月　日

確認問題

●○● 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

*一条の二位の入道のもとに、高名の跳ね馬出で来たりけり。*秦頼久をめして①乗せられたりけるに、ひとたまりもせず跳ねおとされけるを、父敦頼が七十有余にて候ひけるが、これを見て、「わろくつかうまつるものかな。敦頼はよも落ちじ。」とぞ申しけるを、老後にいかがとは入道おもひながら、「さらば乗れかし。」といはれたりければ、やがて乗りて、すこしも落ちざりけり。②人々目を驚かしけり。

（「古今著聞集」より）

一条の二位の入道のもとに、うわさに高い暴れ馬が現れた。秦頼久を□お乗せになったのだが、ひとたまりもなく跳ね落とされたのを、（頼久の）父敦頼が七十歳あまりになっておりましたが、これを見て、下手な乗り方をするものだ。私ならば落ちはすまいに。」と申し上げたのを、年を取っているからどんなものかと思いながら、「それならば乗ってみよ。」とおっしゃったので、すぐに乗って、ぜんぜん落ちなかった。人々はそれを見て驚いたということだ。

（注）一条の二位の入道＝藤原能保のこと。源頼朝の義弟。
秦頼久＝貴人の警護に当たり、馬術にすぐれていた人。

問1 歴史的仮名遣い ＝線A「つかうまつる」、B「いはれたりければ」を、現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

A（　　）
B（　　）

問2 ＝線①「めして」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 現代語訳 「めして」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お呼びになって　イ お行かせになって
ウ ごらんになって　エ お命じになって

□

(2) 主語 「めして」の主語に当たる人を、古文中から抜き出しなさい。

（　　）

問3 内容理解 ＝線②「人々目を驚かしけり。」とありますが、どんなことに驚いたのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 暴れ馬が一人を除いて多くの人を振り落としたこと。
イ 七十歳ほどの敦頼が暴れ馬から落ちなかったこと。
ウ 入道が年取った人を暴れ馬に乗るよう命じたこと。
エ 暴れ馬を乗りこなす上手な乗り手が少ないこと。

□

要点のまとめ

1 古文の仮名遣い…歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときのルール

1. 語頭以外のは行（は・ひ・ふ・へ・ほ）→わ・い・う・え・お
   例 にほひ→におい
2. ゐ・ゑ・を→い・え・お
   例 ゐなか→いなか　こゑ→こえ
   をかし→おかし
3. ぢ・づ→じ・ず
   例 はぢ→はじ　めづらし→めずらし
4. ア段＋う→オ段＋う
   例 ありがたう→ありがとう
5. イ段＋う→イ段＋ゅ＋う
   例 えいきう→えいきゅう（永久）
6. エ段＋う（ふ）→イ段＋ょ＋う
   例 けふ→きょう（今日）
7. む→ん
   例 行かむ→行かん

2 古文の表現…主語を表す「が」、目的語を表す「を」などの省略がある。

3 古語…現代語にない語や、現代語とは異なる意味で使われる語がある。
例 いと＝とても　をかし＝趣がある

SAMPLE

基本問題

◆◇◆　次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

ある大名のやしき、東向きにたてられしに、年月のたつにしたがひ、（A）建てられていたが
南向きこそよからんといへる人、（B）次第に多くなり、その後火災にあ
ひてければ、今こそといひて、①南向きになりけるに、もとの東向き（よいだろう）
今こそ（向きを変えたほうがよいのだろう）と言って、
こそよかりしにといへる人、また次第に多くなり、これも火災にあ
よいだろうという人　今回も火災に
ひてければ、また東向きになりたり。このごろ聞くに、もとの南向
あったので、　近ごろ聞くところによると　南向き
きがなといへる人多しといふ。また年月たちて、②火災あらば、もと
がいいなあ　また何年かたって
の南向きとなるべし。③またよき事もがなと思ふよりして、ここにあ
よいことがあればいいなあと思って　ここにあっ
りてはかしこにゆかん事を思ひ、これをなしてはかれをせん事を思
てはあそこにいこうということを思い　これをしてはあれをしようと思って
ひて、心さわがしくはなれ。されど心にたると思へるよき事は、い
心が落ち着かなくなるのである　しかし　心の中で満足する
つとてもあるまじ。よしあしをわすれて、分をやすんぜんにはしかじ。
いつもあるまい　身の程に甘んじた生活をするに越したことはない。

〈雨森芳洲（あめのもりほうしゅう）「たはれ草」より〉

問1　歴史的仮名遣い　――線A「したがひ」、B「いへる」を、現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

A（　　）　B（　　）

問2　内容理解　――線①「南向きになりける」について、次の各問いに答えなさい。

(1)　南向きにしたのは、どんなことがきっかけになったのですか。十字以内で、現代語で書きなさい。

(2)　なぜ、今度は南向きにしたのですか。その理由がわかる部分を古文中から二十二字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

□　～　□

問3　助詞の補充　――線②「火災あらば」とありますが、「火災」の後に補うと文脈が分かりやすくなる語を、平仮名一字で書きなさい。　□

問4　古語の意味　――線③「なるべし」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　なるかもしれない　　イ　なるにちがいない
ウ　なるといいのに　　エ　なるのが適当だ　　□

問5　内容理解　この古文では、筆者はどんなことを言おうとしていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　周りの意見を聞きながら、自分の考えをもつようにすべきだ。
イ　周囲の人の意見を聞き入れていると、間違いはないものだ。
ウ　あれこれと迷わず、自分に合った生活をすべきだ。
エ　不幸なことがあっても、その後にはよいことが訪れるものだ。　□

SAMPLE

演習問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〔等楊は、小さい頃、寺に預けられたが、修行をせずいつも絵ばかり描いていた。〕

等楊十才の頃、とにかくに描く事をやめぬ故、師の御坊堂の柱に（なにかにつけ／やめないので、師の僧は／本堂の柱に）縛りつけ戒む。然れども哀れみて、日暮に及び縄を解かんとて行き（こらしめた。しかしながら気の毒に思って／縄を解こうとして行かれると、）給ふに、等楊が膝の下より数十匹のねずみ、驚き騒ぎ走り回る。（等楊の膝の下から）

急にこのねずみを追ふ。御坊怪しみて見給ふに、等楊縛られて一（師の僧は急いで／不思議に思ってご覧になると）日の落つる涙の滴りを足の親指につけて縁板にねずみを描く。その（一日に落とした涙のしずくを／縁側に張った板）いきほひあたかも生けるねずみのごとし。師の御坊その妙を感じて、（その様子は／まるで／そのすばらしさに／感動して）これより描くことを戒めず。（とがめなかった）

等楊二十一才の年、郷人に蝶の絵を望まれて描く。草花に蝶の戯（同郷の人／飛び）れ遊びける体を描くに、傍らの猫、真の蝶と思ひて絵に飛びつく。（回る様子を描いたところ／そばにいた猫が／本物の）人々奇異の思ひなしてその筆の妙を感じける。（不思議なことと思って／感心した）

（注）等楊＝室町時代の画僧で雪舟のこと。

〈「草双紙」より〉

問1 歴史的仮名遣い ――線A「追ふ」、B「いきほひ」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

A（　　）　B（　　）

問2 内容理解 ――線①「堂の柱に縛りつけ」とありますが、なぜ縛りつけたのですか。「等楊が……」に続くように、二十字以内で書きなさい。

等楊が

問3 主語 ――線②「哀れみて」とありますが、誰が哀れんだのですか。古文中から抜き出しなさい。（　　）

問4 内容理解 ――線③「数十匹のねずみ」とありますが、このねずみが現れた理由がわかる部分を古文中から三十四字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

～

問5 内容理解 ――線④「絵に飛びつく」とありますが、その理由を、「……から。」に続くように、十字以内で書きなさい。

から。

問6 内容理解 この文章の内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 師の御坊は等楊の絵の才能が見抜けずに絵筆を取り上げた。

イ 師の御坊は等楊に絵を描かせて、人々を驚かせた。

ウ 等楊の描いた生き物の絵は生きているようであった。

エ 等楊が絵に描いたものは動き回るので、人々は恐れた。

SAMPLE

2　次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

これも今は昔、A（ゐなかの）児の比叡の山へ登りたりけるが、桜の①めでたく咲きたりけるに、風のはげしく吹きけるを②見て、この児さめざめと泣きけるを③見て、僧のやはら寄りて、「などかB（かう）は泣かせ給ふぞ。この花の散るをC（惜しう）覚えさせ給ふか。桜は、はかなきものにて、かく程なくD（うつろひ）さぶらふなり。されども、さのみぞさぶらふ」と慰めければ、桜の散らむは、あながちにいかがせん、苦しからず。わが父の作りたる麦の花の散りて、実のいらざらん思ふがわびしきと言ひて、④さくりあげて、よよと泣きければ、⑤うたてしやな。

（注）　児＝学問や行儀見習いのために、寺院にあずけられた少年。

〈「宇治拾遺物語」より〉

問１　歴史的仮名遣い　――A「ゐなか」、B「かう」、C「惜しう」、D「うつろひ」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

A（　　）　B（　　）　C（　　）　D（　　）

問２　会話文　この文章には、一か所「　」の付いていない会話の部分があります。その部分を古文中から抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

［　　］～［　　］

問３　古語の意味　――線①「めでたく」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　めずらしく　イ　ひっそりと
ウ　みごとに　エ　祝われて

［　　］

問４　主語　――線②・③「見て」は、誰の動作ですか。古文中からそれぞれ一字で抜き出しなさい。

②［　　］　③［　　］

問５　心情理解　――線④「さくりあげて、よよと泣きければ」とありますが、児は、どんなことを思って泣いているのですか。二十五字以内で、現代語で書きなさい。

［　　］

問６　心情理解　――線⑤「うたてしやな」とありますが、なぜがっかりしているのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　児は桜の花の散る様子にはかなさを感じているわけではなかったから。
イ　児は桜の花が散る様子とはふつりあいな声を上げて泣いたから。
ウ　児は山に登ることだけを考えていて桜の花を見ていなかったから。
エ　児は桜の花の美しさがわからないで、散ることを悲しんでいたから。

［　　］

SAMPLE

弊社サンプルをご覧いただき、
ありがとうございました。

紙面サンプルは
ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本※と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

会員登録はこちら

Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

- 文理の教材紹介
- デジタルサービスやテストのお申込み
- 教育情報の発信
- オンラインセミナーのお知らせ

■ Bunri Teachers' Siteへのご登録には弊社発行の招待コードが必要です。
■ 本サイトは一般の方のご利用をお断りしております。あらかじめご了承ください。

BUNRI